

「富良野協会病院泌尿器科のあゆみ」

富良野協会病院泌尿器科は、1981年(昭和56年)1月に開設されました。まず外来診療からスタートし、旭川医科大学泌尿器科学講座から、出張医が派遣されました。担当医は、坂下茂男、稲田文衛、橋本 博、藤沢 真、宮田昌伸、岡村廉晴(以後、敬称略)でした。手術が必要な場合は、旭川医大での治療を行いましたが、緊急手術などは当院で対応し、翌年3月までに19例の手術が行われました。

1982年(昭和57年)4月からは、待望の常勤医として、藤澤 真(現、深川市立病院副院長)が着任しました。以後、1983年(昭和58年)若林 昭、1984年(昭和59年)大橋健児、1985～86年(昭和60～61年)小山内裕昭(1回目の着任)、1987年(昭和62年)稲垣尚人、1988～89年(昭和63年～平成元年)山口 聡(1回目の着任)、1990～91年(平成2～3年)渡部嘉彦がそれぞれ診療を担当しました。

1992年(平成4年)には、地域からの要請が最も高かった人工透析室が開設され、そのスペシャリストとして、小山内裕昭が2回目の着任をしました。同時に常勤医が2名に増員されました。以後、患者数や手術件数は飛躍的に増加し、1999年(平成11年)からは常勤医3名体制となりました。

旭川医大の人員の関係から、一時、常勤医は2名に減員されましたが、新病院での尿路結石治療センターの設置が決まり、2005年(平成17年)7月から、山口 聡が尿路結石治療センター準備室長として赴任しました(2回目の着任)。常勤医3名体制が復活し、入院・外来患者数および手術件数が激増しました。2007年(平成19年)4月からは、泌尿器科後期研修医として渡邊成樹が着任し、常勤医は4名となりました。同年5月に新病院での診療が開始され、泌尿器科病床数は48床、透析病床数も25床に増加、また体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)も稼働し始めた結果、患者数や手術数はさらに増加しています。

2008年(平成20年)4月からは、常勤医は再び3名となり、現在に至っています。